

授業科目名	服装造形論 I【服装造形論】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	120	単位数	4
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	基本的な衣服の構造と縫製法を学修し、人体を包む衣服の構成を通年で学ぶ。 一般知識、概説、用具説明、縫製の基礎、パターン記号、サイズの知識をスカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品を通じ理論的に学ぶ。							
到達目標	衣服の構造と縫製法を、スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品の製作を通じて、服装知識、洋裁道具、素材、製図、地直し、裁断、補正、縫製を理論的に考え述べるができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	試験	70	試験、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③『ブラウス・ワンピース』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) ・洋裁技術検定 試験問題集 ・一般社団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック』 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-20 (20)	服装知識① ・製図、裁断、縫製に必要な用具の種類と名称 ・一般的な服種の名称、素材 ・ネックライン・衿・袖などの部分、スカート・パンツなどの基本的なデザインの種類と名称	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎
2	21-40 (20)	服装知識② ・服装知識①で得た内容の説明を書き、図を描く ・部分的な服飾及び服飾手芸の基本的な名称と技法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎
3	41-60 (20)	服装知識③ ・原型の知識、使い方について ・スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケットについての変遷、名称、機能性	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎
4	61-70 (10)	素材 ・繊維の名称と種類、特徴 ・布地の種類と基本的な名称(柄と織り) ・布地の表と裏の見分け方 ・服種に対する布地の選び方	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎
5	71-80 (10)	裁断 ・布地を裁断する場合の留意点 (地の目の方向、柄の裁断)	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	81-90 (10)	縫製① ・素材に対する縫製上の留意点 ・素材に対しての適切なアイロンの使用法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎
7	91-100 (10)	縫製② ・針の名称と素材に適切な針の太さ(番号)、針目の大きさ ・糸の名称と素材に適切な糸の種類と太さ(番号)	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎
8	101-120 (20)	パターンメイキング技術検定対策 ・PM検定試験の概要 ・既製服の概念 ・グレーディング ・パターンメイキング用語	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	講義	山崎

授業科目名	服装造形 デザイン I【服装造形 デザイン】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	アイテム別の成り立ち、スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケットの基本のデザインから、応用デザインまでの構造と、アイテム別のディティールの名称を学ぶ。							
到達目標	アイテム別(スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット)の基本デザイン知識を解釈し、流行やオリジナリティを加味したデザイン展開を実践することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③『ブラウス・ワンピース』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-5 (5)	基礎知識 ・アイテムの分類 ・アイテムの短縮表記	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の振り返り・考察 レポート提出	実習	山崎
2	6-14 (9)	スカート ・形態による名称と素材 ・ウエスト部分の形態による変化 ・スカート丈の名称	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の振り返り・考察 レポート提出	実習	山崎
3	15-23 (9)	ブラウス ・形態による名称 ・ディティールの名称(衿、カフス、ポケット) ・ブラウスのシャツの素材	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の振り返り・考察 レポート提出	実習	山崎
4	24-32 (9)	パンツ ・形態による名称と素材	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の振り返り・考察 レポート提出	実習	山崎
5	33-41 (9)	ジャケット ・ジャケットの変遷 ・形態による名称 ・素材による名称	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の振り返り・考察 レポート提出	実習	山崎

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	42-55 (14)	ショー作品 ワンピース ・形態による名称 ・シルエット、デザイン線について ・ネックラインの名称 ・袖の名称	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の振り返り・考察 レポート提出	実習	山崎
7	56-60 (5)	服装知識 ・一般的な服種の名称、素材 ・ネックライン、衿、袖、スカート、パンツなどの基本的な種類と名称 ・簡単な説明、図の表記	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の振り返り・考察 レポート提出	実習	山崎

授業科目名	服装造形ソーイング I【服装造形ソーイング】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	330	単位数	11
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	実物製作(文化式原型、スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット)・部分縫いを通して基礎的な縫製技術(地直し、裁断、印付け、仮縫い合わせ、補正、縫製)を学ぶ。							
到達目標	実物製作物(文化式原型・スカート・ブラウス・ワンピース・パンツ・ジャケット)・部分縫いを通して、手縫いとミシン縫いの基礎知識、縫製技術を習得する。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③『ブラウス・ワンピース』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	学習方法	担当教員
1	1-4 (4)	ミシン講義 ・ミシンの種類について ・ミシンの取り扱いと部品 ・ミシン練習、操作方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
2	5-9 (5)	基礎知識① ・基礎手縫い 並み縫い、本返し、半返し、逆からの返し、置きじつけ、切りじつけ、普通まつり、奥まつり、千鳥、立ち千鳥	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
3	10-14 (5)	基礎知識② ・裁断、印付けについて ・布地に合わせた糸、針の選び方	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
4	15-34 (20)	原型 ・身頃原型の縫い合わせ ・スカート原型の縫い合わせ ・体型に合わせた調整の方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
5	35-49 (15)	スカート ・基礎ミシン縫い6種類 ・縫製(ファスナーの付け方) ・縫製(ギャザー、ベルト、ホック、ボタン) ・組み立て方法、仕上げ方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎

項目	時限数	学 習 内 容	事前・事後学修	学習方法	担当教員
6	50-84 (35)	ブラウス ・オリジナルパターンを使用した裁断、芯貼り ・縫製(衿、カフス、短冊) ・縫製(身頃、アウトポケット、ボタンホール) ・組み立て方法、仕上げ方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
7	85-124 (40)	パンツ ・仮縫い方法と試着補正 ・縫製(持ち出し、カーブポケット、片玉縁) ・縫製(脇ポケット、ベルト付け) ・組み立て方法、仕上げ方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
8	125-147 (23)	ジャケット① ・仮縫い方法と試着補正 ・表地の裁断、印つけ、テープ貼り ・裏地の裁断、印つけ ・裏地、表地の組み立て方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
9	148-170 (23)	ジャケット② ・縫製(ダーツ、箱ポケット、玉縁ポケット) ・縫製(身頃、衿、袖作り、袖つけ、中綴じ) ・組み立て方法、手縫い工程の方法 ・組み立て方法、仕上げ方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
10	171-250 (80)	ショー作品① (ワンピース) ・仮縫い方法と試着補正 ・オリジナルパターンを使用した裁断、芯貼り ・素材に合わせた縫製準備、テープ貼り	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎
11	251-330 (80)	ショー作品② (ワンピース) ・デザインに合わせた縫製 ・デザインに合わせた組み立て方法 ・デザインに合わせた仕上げ方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の製作の振り返り・考察	演習 実技	山崎

授業科目名	服装造形 平面構成 I【服装造形 平面構成】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	90	単位数	3
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	人体を計測観察し、立体の基礎知識と製図の基本を学修する。文化式原型、スカート、シャツ・ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品の製作を通じ、平面構成による製図方法を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・製図の基本である平面構成の製図方法を、スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品の製作を通じて行うことができる。 ・製図道具、補正、パターン展開を理論的に考え、説明・製図を実践することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	試験	70	試験、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③『ブラウス・ワンピース』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) ・一般社団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック』 ・一般社団法人日本ファッション教育振興協会『洋裁技術認定試験問題集』 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-30 (30)	製図① ・文化式原型の製図と補正方法 ・ダーツの理解と移動方法 ・基本的な製図(スカート、ブラウス、パンツ、ジャケット)	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	実習	山崎
2	31-60 (30)	製図② ・袖の製図と運動量に対する袖山の関係性 ・袖山の高さ、幅、運動量の関係 ・袖の製図と基本製図の応用方法 ・ショー作品の製図	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	実習	山崎
3	61-70 (10)	裁断 ・基本的なブラウスやスカート、ワンピースなどの用布の見積もり	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	実習	山崎
4	71-80 (10)	パターンメイキング技術検定対策1 ・フラットパターンメイキング 身頃 ・フラットパターンメイキング 衿 ・フラットパターンメイキング 袖	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	実習	山崎
5	81-90 (10)	パターンメイキング技術検定対策2 ・工業用パターンメイキング ・グレーディング	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 問題集を使用して該当箇所の復習	実習	山崎

授業科目名	服装造形 立体構成 I【服装造形 立体構成】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	菅原 範子・山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。 仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	工業用ボディを使用し、立体的裁断(ドレーピング)の基礎(一般知識・ボディの準備・裁断・タイトスカート・原型・フレアスカート)のドレーピング)の説明と実演を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 立体的裁断(ドレーピング)の一般知識を使って、立体的裁断を行う上でのボディの選択と素材の地直し、適切な用尺の準備をすることができる。 タイトスカート、婦人原型、フレアスカートのドレーピングを実践することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> プリント資料配布 参考文献 文化ファッション大系 アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局) 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-10 (10)	立体的裁断(ドレーピング)の準備 ・用具、材料 ・ボディの準備 ・ピンの打ち方	事前: 上記資料の該当箇所を読む 事後: 実技の復習	演習 実習	菅原 山崎
2	11-20 (10)	立体的裁断について ・立体的裁断とは ・衣服と造形美 ・衣服と人体	事前: 上記資料の該当箇所を読む 事後: 実技の復習	演習 実習	菅原 山崎
3	21-30 (10)	立体的裁断の基礎 ・衣服の基本形 (身頃原型、タイトスカート、フレアスカート)	事前: 上記資料の該当箇所を読む 事後: 実技の復習	演習 実習	菅原 山崎
4					
5					

授業科目名	アパレル生産管理Ⅰ【生産企画・生産管理・アパレル品質論・素材論】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・布の持つ性質を理解し、生産工場に倣い、作品(製品)を提出日(納品)までに計画的に生産する流れの中で、品質・原価・納期に関する認識を習得する。 ・生産企画: ブランドイメージ、価格、流行やニーズに合ったデザイン企画、書類作成の方法を学ぶ。 ・生産管理: 工場発注に向けた書類製法を学ぶ。 ・アパレル品質論・素材論: 製品(作品)の素材を理解し取扱いについてを学ぶ。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・素材特性に合わせ、生産するファッションアイテムを関係づけることができる。 ・スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品の製作を通じ、企画方法、生産管理、品質管理の知識をつけ、生産に伴う書類製作(縫製仕様書、指示書、工程分析表)を行うことができる。 ・素材、縫製仕様に合わせて製品着用後の取り扱い注意点を説明することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	レポート	70	レポート、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③『ブラウス・ワンピース』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) 							

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-4 (4)	生産企画① スカート ・デザインに合わせた企画 ・デザインに適した素材	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
2	5-8 (4)	生産企画② ブラウス ・デザインに合わせた企画 ・デザインに適した素材	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
3	9-12 (4)	生産企画③ パンツ ・デザインに合わせた企画 ・デザインに適した素材	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
4	13-16 (4)	生産企画④ ジャケット ・デザインに合わせた企画 ・デザインに適した素材	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
5	17-20 (4)	生産企画④ ワンピース ・デザインに合わせた企画 ・デザインに適した素材	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	21-22 (2)	生産管理① 基礎知識 ・アイテム図の必要性、製品寸法について ・縫製仕様書の書き方 ・縫製指示書の書き方 ・工程分析表の仕組み	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
7	23-24 (2)	生産管理② スカート ・アイテム図と製品寸法(ボトム)について ・水通しと、マーキング ・縫製仕様書・指示書の書き方 ・工程分析表の考え方と書き方	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
8	25-28 (4)	生産管理③ ブラウス ・アイテム図と製品寸法(トップス)について ・水通しと、マーキング ・縫製仕様書・指示書の書き方 ・工程分析表の考え方と記号を使った書き方	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
9	29-32 (4)	生産管理④ パンツ ・アイテム図と製品寸法(ボトム)について ・素材準備とマーキング ・縫製仕様書・指示書の書き方 ・工程分析表の考え方と記号を使った書き方	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
10	33-36 (4)	生産管理⑤ ジャケット ・アイテム図と製品寸法(トップス)について ・縮絨とマーキング ・縫製仕様書・指示書の書き方 ・工程分析表の考え方と記号を使った書き方	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
11	37-40 (4)	生産管理⑥ ショー作品 ワンピース ・アイテム図と製品寸法(ワンピース)について ・素材準備とマーキング ・縫製仕様書・指示書の書き方 ・工程分析表の考え方と記号を使った書き方	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の復習、考察 レポート提出	実習	山崎
12	41-50 (10)	アパレル品質論・素材論① ・素材に合わせた裁断、生産方法 ・製品後の着用時の取り扱いの注意	事前:上記テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト該当箇所の復習、考察	講義 実習	山崎
13	51-60 (10)	アパレル品質論・素材論② ・製品後のクリーニング等の手入れの方法 ・製品後の破損時の修理方法	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト該当箇所の復習、考察	講義 実習	山崎

授業科目名	パターンメイキング I【パターンメイキング】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・布の持つ性質を理解し、生産工場に倣い、作品(製品)を提出日(納品)までに計画的に生産する流れの中で、品質・原価・納期に関する認識を習得する。 ・主に、パターンメイキングを学ぶ。デザイン画をもとに、流行、機能性、シルエットに考慮してパターンメイキングする技術(スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品)を学ぶ。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン画をもとに、流行、機能性、に考慮してパターンメイキングを実践することができる。 ・スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品のデザイン画に合わせたシルエットの出し方、テクニックを実践することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	制作物	70	制作物、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③『ブラウス・ワンピース』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-3 (3)	基礎知識 ・JISサイズ規格 ・トワルの種類 ・トワルの種類地直し ・原型	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習	実習	山崎
2	4-10 (7)	原型 ・文化式婦人原型、メンズ原型、袖の作図 ・スカート原型	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習	実習	山崎
3	11-15 (5)	スカート ・基本シルエットの作図(タイトスカート、ギャザースカート、ティアードスカート) ・デザインに合わせた作図の方法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎
4	16-20 (5)	ブラウス ・基本シルエットの作図(基本のシャツ、レディース) ・デザインに合わせた作図の方法、パターンの展開	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎
5	21-25 (5)	パンツ ・基本シルエットの作図(ストレートパンツ) ・デザインに合わせた作図の方法、パターンの展開	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	26-30 (5)	ジャケット ・基本シルエットの作図(テーラードジャケット) ・裏地用パターン、衿のパターンの展開	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎
7	31-35 (5)	パターン操作方法 ・ダーツの移動と分散、ダーツを利用したデザイン展開	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト、プリント資料での復習 自主訓練	実習	山崎
8	36-47 (12)	ショー作品① ワンピース ・デザインに合わせた作図の方法 ・デザインに合わせたパターンの展開	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎
9	48-60 (13)	ショー作品② ワンピース ・シルエットの確認方法 ・パターンの展開の分量と調整方法	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎

授業科目名	アパレルパターンメイキング I【工業パターンメイキング】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	布の持つ性質を理解し、生産工場に倣い、作品(製品)を提出日(納品)までに計画的に生産する流れの中で、品質・原価・納期に関する認識を学ぶ。 主に縫い代付き工業用パターン(縫製に合わせた縫い代、パターン記号、附属パターン)について学ぶ。							
到達目標	スカート、ブラウス、ワンピース、パンツ、ジャケット、ショー作品のシルエットパターンを、素材・縫製にあわせた縫い代の形状、パターン記号を解釈し工業用パターン製作を行うことができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	制作物	70	制作物、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③『ブラウス・ワンピース』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-2 (2)	アパレル企業のパターンメイキング ・アパレル企業の構造 ・パターンメイカーの業務 ・CADパターンメイキングシステム	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習	実習	山崎
2	3-6 (4)	基礎知識① ・パターンメイキング用語 ・JIS衣料サイズ規格 ・衣料パターン表示記号	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習	実習	山崎
3	7-10 (4)	基礎知識② ・縫い代に入れる切込み ・マーキング(印つけ)の方法 ・ドラフティングとパターンチェック ・縫い代の付け方	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎
4	11-30 (20)	基本アイテムのパターンメイキング ・スカート ・ジャケット ・ブラウス ・ワンピース ・パンツ	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: テキスト、プリント資料での復習 自主練習	実習	山崎
5					

授業科目名	ファッションデザインⅠ 【ファッションデザイン画・クラフトデザイン・テキスタイルデザイン】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	菅原 範子・山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのデザイン・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。 仕立て専門店でのビジネス経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	ファッションデザイン画(菅原) ・人体のプロポーション、衣服着装の表現、素材表現などの基礎テクニックを学ぶ。 テキスタイルデザイン(山崎) ・素材の知識や構造等、柄の種類等、テキスタイル知識を学修する。 クラフトデザイン(山崎) ・課題作品に合わせた刺しゅうやニットのデザイン・技法を学ぶ。							
到達目標	・基本的な人体のプロポーション、着装表現、立体表現を示すことができる。 ・素材を解釈しテキスタイルデザインや全体のデザインにリアリティを加える表現をすることができる。 ・テキスタイルの構造や種類、素材の知識等、テキスタイル全般を解釈することができる。 ・作品に合わせた刺しゅうやニットの図案や技法を表現することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	・文化ファッション大系 改訂版・服飾関連専門講座⑤『ファッションデザイン画』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾関連専門講座②『服飾デザイン』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧『手芸』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-10 (10)	ファッションデザイン画① ・基本となるプロポーション(8頭身) ・正面のプロポーション ・側面と背面のプロポーション ・ポーズのバリエーション	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:実技の復習	講義 実習	菅原
2	11-20 (10)	ファッションデザイン画② ・手・腕・脚の描き方 ・全身ポーズと着装 ・布の表現	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:実技の復習	講義 実習	菅原
3	21-30 (10)	ファッションデザイン画③ ・着装画とアイテム図 ・水彩絵の具 ・色鉛筆 ・ファッションイメージ別表現	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:実技の復習	講義 実習	菅原
4	49-52 (4)	クラフトデザイン① ・ブラウス刺しゅうデザイン ・ステッチの技法	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:実技の復習	講義 実習	山崎
5	53-56 (4)	クラフトデザイン② ・ファッションショー作品刺しゅうデザイン ・ステッチの技法	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:実技の復習	講義 実習	山崎

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	57-60 (4)	クラフトデザイン③ ・ファッションショー作品ニットデザイン ・ニットの技法	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 実技の復習	講義 実習	山崎
7	31-39 (9)	テキスタイルデザイン① ・素材表現 ・ウール ・ニット ・レース	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 実技の復習	講義 実習	山崎
8	40-48 (9)	テキスタイルデザイン② ・透ける布 ・光沢のある布 ・皮革・毛皮 ・柄の表現	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: 実技の復習	講義 実習	山崎

授業科目名	ファッションデザイン学 I【ファッション色彩学・服装史・ファッション情報】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	きたむら 千鶴・谷内 眞佐子・山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	カラー・WEB・グラフィックデザイナー、色彩心理学やパーソナルカラー等の企業での経験を生かし、実践的な授業を行う。 歴史的背景を踏まえたファッション作品の研究と経験を生かした実践的な授業を行う。 仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	ファッション色彩学(きたむら) ・色についての基礎的な知識、色彩によるデザインの変化や視覚的効果などを学修する。 服装史(谷内眞) ・古代から現代にいたる西洋を中心とした服装の推移、発展を映像を使って紹介し、今後のファッションデザインにその知識を生かせるように学修する。 ファッション情報(山崎) ・市場調査や、雑誌、TV、インターネット等をから情報収集しファッションデザインに反映させる考え方を学修する。							
到達目標	・色についての基礎的な知識を学修を通じ、カラーシステム、色相環を解釈することができる。 ・古代から現代にいたる西洋を中心とした服装の変遷を、ファッションデザインに応用することができる。 ・市場調査や、雑誌、TV、インターネット等をから情報収集し、ファッションデザインに適用することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	作品・レポート	70	課題作品、レポート、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	・文化ファッション大系 改訂版・服飾関連専門講座②『服飾デザイン』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 服飾関連専門講座①改訂版・『西洋服装史』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-4 (4)	ファッション色彩学① ・デザイン概論 ・基礎デザイン、コンポジション ・デザインの形態	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義 実習	きたむら
2	5-8 (4)	ファッション色彩学② ・色彩の科学 ・色と心理	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義 実習	きたむら
3	9-12 (4)	ファッション色彩学③ ・三属性とトーン ・色相環	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義 実習	きたむら
4	13-15 (3)	ファッション色彩学④ ・カラーシステム ・カラーコーディネーション	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義 実習	きたむら
5	16-17 (2)	服装史① ・衣服の原点	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義	谷内(眞)

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	18-19 (2)	服装史② ・古代の服飾 ・古代の衣服の変化	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義	谷内(真)
7	20-21 (2)	服装史③ ・中世の服飾 ・中世の衣服の流行	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義	谷内(真)
8	22-23 (2)	服装史④ ・近世の服飾 ・現代の衣服へのつながり	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義	谷内(真)
9	24-25 (2)	ファッション情報① ・ファッションアイテムの分類 ・アイテムの名称と由来	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義	山崎
10	26-27 (2)	ファッション情報② ・情報収集と分析 ・分析の方法、まとめ方	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義	山崎
11	28-30 (3)	ファッション情報③ ・情報収集と分析 ・流行のアイテム、デザインの考察 ・流行アイテムの素材の考察	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	講義	山崎

授業科目名	服飾工芸Ⅰ【服飾手芸・ニット・テキスタイル・染色・アクセサリ】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	120	単位数	4
担当教員	山崎志織・大川寿美江・加藤祐子・酒井アキノ	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	編み物教室の運営および編み物本の執筆経験を生かし、実践的な授業を行う。 テキスタイルスクール(織り)の指導員を経て、作家活動や工場の運営経験を生かし、実践的な授業を行う。 海外の織物博物館にて学芸員として培った染色研究経験、作家活動を生かした実践的な授業を行う。							
授業概要	服飾手芸(山崎): 刺しゅう・パッチワーク等の、デザインと素材に合わせた技法の基礎を学修する。 ニット(大川): 手編み(かぎ針・棒針)編地の種類と特質を理解し、編みの構造を学修する。 テキスタイル(加藤): テキスタイルの基本的な構造と応用技術を織り機を使用して学修する。 染色(酒井): 生地への染色の基礎を、絞り染めの実習を通して学修する。 アクセサリ(山崎): 作品に合わせたアクセサリを製作し、基礎を学修する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインと素材に合わせた刺しゅうの技法を使い創造し表現することができる。 ・織り機の使い方、織りの構造を解釈し作品に表現することができる。 ・絞り染めの実習を通して染色の技法を使い表現することができる。 ・アクセサリ製作技法を使い、創造の基礎を解釈し作品を表現することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧『手芸』文化服装学院編(文化出版局) ・基本の編み方がわかる本『はじめましての棒針教室』(文化出版局) ・いちばんよくわかる 新・かぎ針あみの基礎(日本ヴォーグ社) ・プリント資料配布 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-9 (9)	服飾手芸① エンブroidアリー ・エンブroidアリーの扱い方、素材、用具 ・図案について(写し方) ・糸の扱い方、糸の通し方 ・ステッチ1種類	事前: 刺しゅうについて情報を収集する 事後: プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実習 実技	山崎
2	10-18 (9)	服飾手芸② エンブroidアリー ・ステッチ14種類	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実習 実技	山崎
3	19-27 (9)	服飾手芸③ エンブroidアリー ・ステッチ1種類 ・糸の始末 ・仕上げ方	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実習 実技	山崎
4	28-30 (3)	ニット① かぎ針編み ・作り目 ・基礎的な編み方数種類 ・仕上げ方	事前: ニットについて情報を収集する 事後: プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	演習 実技	大川
5	31-33 (3)	ニット② 棒針編み ・作り目 ・基礎的な編み方数種類 ・仕上げ方	事前: 上記テキストの該当箇所を読む 事後: プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	演習 実技	大川

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	34-36 (3)	ニット③ かぎ針編み(モチーフ) ・作り目 ・モチーフのつなぎ方 ・仕上げ方	事前:上記テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	演習 実技	大川
7	37-45 (9)	テキスタイル① ・布製品の種類 ・織物の種類 ・繊維の分類 ・糸について ・糸の太さ ・手織りの工程 ・織機の名称 ・道具の名称	事前:糸について興味を持つ 事後:プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実技	加藤
8	46-55 (10)	テキスタイル② ・糸準備 ・整経 ・箆通し ・綜統通し ・縦巻き ・織り始める準備	事前:プリントの該当箇所を読む 事後:プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実技	加藤
9	56-65 (10)	テキスタイル③ 基本の織り ・平織 ・綾織(斜文織) ・朱子織	事前:プリントの該当箇所を読む 事後:プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実技	加藤
10	66-75 (10)	テキスタイル④ 応用の織り(柄織り) ・応用織り数種類	事前:柄について情報を収集する 事後:プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実技	加藤
11	76-84 (9)	テキスタイル⑤ ・織機からのはずし方 ・織りの仕上げ方	事前:手織りに関して考察する 事後:プリント資料、テキスト該当箇所の復習 課題作品製作	実技	加藤
12	85-87 (3)	染色① ・染色とは ・染めの種類 ・製作アイテムの考察	事前:染めについて興味を持つ 事後:染色図案の考察 課題作品製作	実技	酒井
13	88-90 (3)	染色② ・絞り染めの基本と使用用途 ・実物製作 ・製作アイテムの考察	事前:染色図案の考察 事後:課題作品製作	実技	酒井
14	91-100 (10)	アクセサリー① ・アクセサリーの基礎 ・種類、名称 ・デザイン	事前:アクセサリーの情報を収集する 事後:実習内製作物の提出 レポート作成	実技	山崎
15	101-120 (20)	アクセサリー② ・実物製作 ・コーディネート ・扱い方について	事前:材料の選択、準備 事後:実習内製作物の提出 レポートの作成	実技	山崎

授業科目名	ファッションビジネス論Ⅰ 【ファッションビジネス論・ショップリサーチ・コンピューターワーク】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	吉野 翠・山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	縫製工場での縫製、ユニフォーム製造企業での企画・デザイナー経験を生かし、実践的な授業を行う。 仕立て直し専門店でのビジネス経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	ファッションビジネス論(吉野) ・ファッションビジネス業界の基礎知識と現状を学ぶ。 ショップリサーチ(山崎) ・商品開発や広告の為の市場調査・分析などの方法を学ぶ。 コンピューターワーク(山崎) ・コンピュータの基礎操作を学修し、文章入力・表計算の方法等を学ぶ。							
到達目標	ファッションビジネスの基礎知識から市場調査を通して、企画から生産までのプロデュースを実践することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	レポート	70	レポート、授業姿勢・態度を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント資料配布 ・Office Excel ・Office Word 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-2 (2)	ファッションビジネス論① ・ファッションとファッションビジネス ・ファッションとは ・衣服とファッションと生活 ・ファッションビジネス	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察 レポートの作成	講義	吉野
2	3-5 (3)	ファッションビジネス論② ・衣服制作のプロセス ・注文服(個別製作)のプロセス ・既製服(大量生産)のプロセス ・企画から販売まで流通の手順	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察 レポートの作成	講義	吉野
3	6-8 (3)	ファッションビジネス論③ ・ファッション感性分析と考察 ・クラシック、エレガント、フェミニン、スポーティ、マニッシュ、モダン、エスニック、アバンギャルド	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察 レポートの作成	講義	吉野
4	9-10 (2)	ファッションビジネス論④ ・アパレル繊維素材論 ・天然繊維、再生繊維、化学繊維 ・テキスタイルの柄のバリエーション ・クリーニング時の取り扱い	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察 レポートの作成	講義	吉野
5	11-12 (2)	ファッションビジネス論⑤ ・国別アパレルブランドの分析 ・コレクション別の特徴と代表ブランド ・コレクションの製作について	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察 レポートの作成	講義	吉野

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	13-19 (7)	ショッピングサーチ① ・実店舗へマーケットリサーチ ・トレンドアイテム分析、考察	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
7	20-27 (8)	ショッピングサーチ② ・実店舗へマーケットリサーチ ・トレンド素材、カラー分析、考察	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察 レポートの作成	講義 実習	山崎
8	28-30 (3)	コンピューターワーク ・ワード、エクセルの基本操作	事前:プリント資料該当箇所の予習 事後:プリント資料の復習、考察	演習	山崎

授業科目名	ファッションコーディネート I【コーディネート論・コーディネート演習・ヘアメイク】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	山崎 志織・吉野 翠・太田 悦子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店でのビジネス経験を生かし、実践的な授業を行う。 縫製工場での縫製、ユニフォーム製造企業での企画・デザイナー経験を生かし、実践的な授業を行う。 化粧品メーカーでのビューティーアドバイザー経験を生かし、美容に関する実践的な授業を行う。							
授業概要	<p>コーディネート論(山崎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイテムや色彩を考えた、コーディネートの方法を学修し、表現力を学ぶ。 <p>コーディネート演習(山崎)(吉野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着こなしや、着せ付けなどの演習を通して、個性を生かしたコーディネートの技術を学ぶ。 <p>ヘア・メイク(太田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎化粧品を学び、肌にあった手入れ方法、メイクアップ技術、顔の特徴に合わせたメイク方法を習得する。 ・フレグランスとネイルの基礎知識を学修する。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションアイテムとカラーコーディネートに合わせた表現をすることができる。 ・色彩を考えたコーディネート法、着こなし、着せ付けなどの個性を生かしたコーディネート法を実践することができる。 ・基礎化粧品法、メイクアップ技術(フレグランス、ネイルを含む)を実践することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	試験	30	試験、課題・レポート、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	課題・レポート	40						
	授業態度・姿勢	30						
教材	・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-6 (6)	<p>コーディネート論①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションコーディネートの考え方 ・カラーアイテムのコーディネート 	<p>事前:アイテムについて知識を予習する</p> <p>事後:レポートの作成</p>	講義	山崎
2	7-11 (5)	<p>コーディネート論②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションコーディネートの考え方 ・同色のときのコーディネート 	<p>事前:体型についての知識を予習する</p> <p>事後:レポートの作成</p>	講義	山崎
3	12-16 (5)	<p>コーディネート論③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションコーディネートの考え方 ・体型別コーディネート 	<p>事前:製作アイテムの準備</p> <p>事後:レポートの作成</p>	講義	山崎
4	17-21 (5)	<p>コーディネート論④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションコーディネートの考え方 ・個人に向けたパーソナルコーディネート 	<p>事前:リサーチを行ない情報を収集する</p> <p>事後:レポートの作成</p>	講義	山崎
5	22-26 (5)	<p>コーディネート演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックアイテムを使用したスタイリング 	<p>事前:アイテムについて知識を予習する</p> <p>事後:レポートの作成</p>	演習	山崎 吉野

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	27-32 (6)	コーディネート演習② ・トレンドアイテムを取り入れたスタイリング	事前:アイテムについて知識を予習する 事後:レポートの作成	演習	山崎 吉野
7	33-37 (5)	コーディネート演習③ ・体型に合わせたスタイリング	事前:体型についての知識を予習する 事後:レポートの制作	演習	山崎 吉野
8	38-42 (5)	コーディネート演習④ ・製作アイテムを使用したスタイリング	事前:製作アイテムの準備 事後:レポートの制作	演習	山崎 吉野
9	43-45 (3)	ヘア・メイク① ・皮膚学、スキンケアについて	事前:メイクについて情報収集する 事後:プリント資料の復習、考察	演習	太田
10	46-49 (4)	ヘア・メイク② ・基本の肌タイプとスキンケア	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習、考察	演習	太田
11	50-53 (4)	ヘア・メイク③ ・4タイプの基本メイクアップ (セルフメイク)	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習、考察	演習	太田
12	54-57 (4)	ヘア・メイク④ ・4タイプの基本メイクアップ (対面メイク)	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習、考察	演習	太田
13	58-60 (3)	ヘア・メイク⑤ ・皮膚学、スキンケア、基本メイクの試験 ・フレグランスとネイルケア	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習、考察	演習	太田

授業科目名	キャリア教育 I【就職ガイダンス・企業研修】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	企業での知識や経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	就職ガイダンス ・就職活動の進め方、インターネットや職業紹介所の利用方法を知る。 ・グループ面接、グループディスカッションの対応方法を習得する。 企業研修 ・企業訪問を行い、将来の職業に対する向上心を高め、専門知識を学修する意義を深める。 ・企業で即戦力となる、専門知識や技術及び態度を習得する。							
到達目標	就職ガイダンス ・就職活動の進め方を解釈し、インターネットや職業紹介所を利用した求職を行うことができる。 ・グループ面接、グループディスカッションに対応する適切な態度を実践することができる。 企業研修: 企業訪問や企業研修を行うことで、社会人としての考え方、行動を実践することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-3 (3)	就職ガイダンス① ・就職活動の進め方について	事前: 就職活動に興味を持つ 事後: 就職活動の計画を立てる	講義	山崎
2	4-8 (5)	就職ガイダンス② 札幌新卒応援ハローワーク実践 ・職業紹介所、インターネット職業紹介サイトの利用方法 ・求人票の見方 ・自己分析の仕方	事前: 資料該当箇所を読む 事後: 自己分析表などの作成	講義	山崎
3	9-13 (5)	就職ガイダンス③ 札幌新卒応援ハローワーク実践 ・グループ面接を想定した模擬面接 ・グループディスカッション	事前: 履歴書、自己分析表を読む 事後: 模擬面接の反省・振り返り	講義	山崎
4	14-30 (17)	企業研修 ・企業訪問先の業務内容について ・企業見学、研修	事前: 訪問企業について調べる 事後: 研修内容・態度の振り返り	実習	山崎
5					

授業科目名	一般教養 I【茶道・ビジネスマナー・美術鑑賞】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	三品 あおい・山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	煎茶道竹峯流教授、マナープルトコール検定準1級取得経験を生かして、実践的な授業を行う。							
授業概要	茶道(三品) ・伝統的な日本文化に触れることで「文化」の持つ重要さを感じる。お茶の作法から礼儀までを習得する。 ビジネスマナー(三品) ・挨拶の仕方や姿勢、名刺交換の方法など、社会人として必要なマナーを学ぶ。 美術鑑賞(山崎) ・美術館・博物館・ギャラリーなどで芸術作品を鑑賞し、美の本質を知り教養を高め、創造力や感性を養う。							
到達目標	・茶道を通じて伝統的な日本文化に触れ、お茶の作法や礼儀、所作を行うことができる。 ・挨拶の仕方や姿勢など、社会人として必要なビジネスマナーを実践することができる。 ・美術館、博物館、ギャラリーなどの施設にて、芸術作品の見方と創造力を養い感性を磨くことができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	・プリント資料配布(ビジネスマナー)							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-3 (3)	茶道① ・日本式の作法とマナー ・ほうじ茶の淹れ方、茶席でのマナー	事前:伝統的な日本文化に興味を持つ 事後:作法の振り返り、考察	演習	三品
2	4-6 (3)	茶道② ・煎茶の淹れ方、茶席でのマナー ・和装についての知識	事前:お茶の種類について調べる 事後:作法の振り返り、考察	演習	三品
3	7-9 (3)	茶道③ ・抹茶の立て方、茶席でのマナー ・これまでの授業のまとめ	事前:所作について意識する 事後:作法の振り返り、考察	演習	三品
4	10-25 (16)	ビジネスマナー ・挨拶、姿勢、名刺交換の方法 ・履歴書の書き方、就職活動に向けて ・手紙、宛名の書き方	事前:マナーについて興味を持つ 事後:挨拶、姿勢の振り返り、自主練習 手紙、宛名の書き方練習	講義	山崎
5	26-30 (5)	美術鑑賞 ・美術館や展示会にて美術鑑賞	事前:鑑賞する美術、芸術の歴史や作品の背景について調べる 事後:鑑賞した作品について考察、レポートの作成	講義	山崎

授業科目名	特別授業【校外研修・特別講義】							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	山崎 志織	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	仕立て直し専門店での縫製経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	校外研修 ・工場、作品展示会、ファッションショーなどを見学・参加し、知識及び情報を収集し感性を磨く。							
	特別講義 ・企業の方やデザイナーなど、様々な専門家を招き、講義を受けることによりファッション業界の現状を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を行うことによって、外部とコミュニケーションすることができる。 ・企業の方やデザイナーなど、ファッション業界の専門家から直接講義を受けることにより、専門知識や技術を学修する意義を解釈することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	特になし							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-15 (15)	校外研修 ・工場、作品展示見学 ・ファッションショーなどの見学・参加	事前: 研修先について情報収集する 事後: 研修内容の振り返り	講義	山崎
2	16-30 (15)	特別講義 ・アパレルメーカーやデザイナーなどファッション業界の専門家による講義	事前: 特別講師について情報収集する 事後: 講義内容について振り返り・考察	講義	山崎
3					
4					
5					

授業科目名	学校行事							
科目担当責任者	山崎 志織	実務経験	有	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	時限数	30	単位数	1
担当教員	山崎 志織	区分	<input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤	授業期間	前期	後期	<input checked="" type="radio"/> 通年	
実務経験を生かした教育内容								
授業概要	新入生歓迎会・募金活動・スクールピクニック・針供養などの行事を通し、コミュニケーション能力、社会貢献活動の意義、日本の伝統文化を学修する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生が行事に参加することにより、他者とのコミュニケーションを強化することができる。 ・針供養を通し、日本の伝統行事を継承し解釈をすることができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-30 (30)	新入生歓迎会 募金活動 スクールピクニック 針供養	事前: 行事について情報収集する 事後: 行事内容について振り返り・考察	演習	山崎
2					
3					
4					
5					

授業科目名	服装造形論Ⅱ【服装造形論】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	120	単位数	4
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	<p>服装造形論Ⅰにて修得した基本的な衣服の構造と縫製法を理解した上で、アイテム別のデザインを応用し、また人体の計測観察をもとに立体の応用知識と技術を習得する。</p> <p>スーツ、コート、フォーマルウェア(ショー作品)、子供服の歴史、デザイン、機能、素材に対するアパレル産業の商品販売生産企画からまでの流れについて認識する。</p>							
到達目標	<p>・服装造形論Ⅰにて習得した基本的な衣服の構造と縫製法を解釈した上で、スーツ、コート、フォーマルウェア、子供服の歴史、デザイン、機能、素材に対して実践することができる。</p> <p>・アパレル産業の商品企画から販売生産までの流れについて関連づけ、アパレルメーカーのプロセスについて説明することができる。</p>							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	試験	70	試験、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<p>・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布</p> <p>・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局)</p> <p>・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座⑤『コート・ケープ』文化服装学院編(文化出版局)</p> <p>・文化ファッション大系 服飾造形講座⑥『服飾造形応用編Ⅰ(高級素材)』文化服装学院編(文化出版局)</p> <p>・文化ファッション大系 アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局)</p> <p>・一般財団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング検定試験3級ガイドブック』『パターンメイキング検定試験2級ガイドブック』</p>							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-10 (10)	体型研究 ・細部寸法の正しい計測、原型、パターン ・原型について ・原型の補正方法 ・体型の違いによる補正法	『服飾造形の基礎』 パターンメイキング検定試験3級ガイドブック パターンメイキング検定試験2級ガイドブック 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト内容に準ずる問題集を行う	講義	菅原
2	11-40 (30)	スーツ ・スーツについて ・ジャケットの名称・デザイン 素材 ・形態による名称 ・素材による名称 ・素材について	『ジャケット・ベスト』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト内容に準ずる問題集を行う	講義	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
3	41-70 (30)	コート <ul style="list-style-type: none"> ・コートについて ・コートの変遷 ・コートの名称・デザインについて ・素材について ・形態による名称 ・素材のよる名称 ・仕立てによる名称 ・デザインと作図 ・ストレートシルエットのコート ・ラグランスリーブのコート ・ルダンゴト ・ドロップショルダーコート ・キモノスリーブ ・まちについて ・フードについて 	『コート・ケープ』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:テキスト内容に準ずる問題集を行う	講義	菅原
4	71-90 (20)	商品企画 <ul style="list-style-type: none"> ・デザインについて ・販売計画 ・サンプル縫製 ・プレゼン ・検品 ・販売 	『工業用パターンメイキング』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義	菅原
5	91- 110 (20)	フォーマルウェア(ショー作品)・応用作品 <ul style="list-style-type: none"> ・シルキータッチの素材 ・フォーマル素材の説明 ・透ける素材の扱い方 ・レースについて ・特殊素材について ・皮革について 	『服飾造形応用編Ⅰ(高級素材)』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義	菅原
6	111- 120 (10)	子供服 <ul style="list-style-type: none"> ・子供服の基礎知識 ・子供服の変遷 ・子供の体型の特徴と成長 	プリント資料配布 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習	講義	菅原

授業科目名	服装造形 デザインⅡ【服装造形デザイン】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのデザイン・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	衣服と素材のデザイン、アイテム別の成り立ち、スーツ、コート、フォーマルウェア、子供服の基本のデザインから応用デザインまでの構造を学ぶ。アイテム別ディティールの応用力を身につける。 アパレル産業での商品企画を学び、販売商品のデザインを発想する力を習得する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スーツ、コート、フォーマルウェア(ショー作品)のデザインを通じ、アイテム別の服装知識、ディティールをデザインし、応用することができる。 ・アパレル産業での商品企画について関係づけ、販売商品のデザインを創造することができる。 ・子供服のデザインについて年齢別に衣服の構造の違いを説明することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	レポート	20	課題作品、レポート、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	作品	50						
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座⑤『コート・ケープ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 服飾造形講座⑥『服飾造形応用編Ⅰ(高級素材)』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局) ・一般財団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング検定試験3級ガイドブック』『パターンメイキング検定試験2級ガイドブック』 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-2 (2)	体型研究 ・細部寸法の正しい計測方法、原型のかき方・作り方、パターン操作 ・衣服素材とデザイン	『服飾造形の基礎』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリント資料の復習 レポートの作成	実習 演習	菅原
2	3-12 (10)	スーツ ・ジャケットのデザインと作図 ・テーラードジャケット ・ピークトラペルのジャケット ・ダブルブレスト ・プリンセスラインのジャケット ・ショールカラーのジャケット ・パネルラインのジャケット ・シャツカラーのジャケット ・カーブドラペルのジャケット ・カーディガンジャケット	『ジャケット・ベスト』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリントの復習 レポートの作成	実習 演習	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
3	13-22 (10)	コート <ul style="list-style-type: none"> ・コートの名称・デザインについて ・形態による名称 ・素材による名称 ・仕立てによる名称 ・デザインと作図 ・ストレートシルエットのコート ・ラグランスリーブのコート ・ルダングト ・フレアーコート ・ドロップショルダーコート ・キモノスリーブ ・まちについて ・ハイネック ・フード 	『コート・ケープ』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリントの復習 レポートの作成	実習 演習	菅原
4	23-35 (13)	商品企画 <ul style="list-style-type: none"> ・デザインについて ・販売計画 ・サンプル縫製 ・検品 ・プレゼン ・販売 	『工業用パターンメイキング』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	実習 演習	菅原
5	36-55 (20)	フォーマルウェア(ショー作品)・応用作品 <ul style="list-style-type: none"> ・シルキータッチの素材 ・フォーマル素材の説明 ・透ける素材の扱い方 ・レースについて ・特殊素材について ・皮革について 	『服飾造形応用編Ⅰ』 高級素材 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	実習 演習	菅原
6	56-60 (5)	子供服 <ul style="list-style-type: none"> ・子供のデザインについて ・衣服の説明 ・乳児期・幼児期・園児・小学校・中学校 	プリント資料配布 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリントの復習	実習 演習	菅原

授業科目名	服装造形ソーイングⅡ【服装造形ソーイング】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	240	単位数	8
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	衣服の構造と縫製法を、スーツ、コート、フォーマルウェアの製作を通じて、ミシンの取り扱い、地直し、印つけ、仮縫わせ・補正、裁断、縫製を学修する。 アパレル商品が縫製工場でのどのように縫製し生産されているのかを学修し、複数量を生産する量産縫製技術を学ぶ。							
到達目標	衣服の構造と縫製法を、スーツ、コート、フォーマルウェア(ショー作品)の製作を通じて、ミシンの取り扱い、地直し、印つけ、仮縫い合わせ・補正、裁断、縫製ができる事を可能とする。 アパレル商品が縫製工場でのどのように縫製し生産されているのかを理解し、複数量を生産する量産縫製技術を習得する。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	作 品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座⑤『コート・ケープ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 服飾造形講座⑥『服飾造形応用編Ⅰ(高級素材)』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局) ・一般財団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング検定試験3級ガイドブック』『パターンメイキング検定試験2級ガイドブック』 							

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	学習方法	担当教員
1	1-6 (6)	体型研究 ・原型の補正 ・縫製実技 ・地づめ(縮絨)地の目直し	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原
2	7-41 (35)	スーツ1 ・シーチングと実物仮縫い方法と試着補正 ・パターンメイキング ・裁断と印つけ ・仮縫い ・試着補正方法とパターン修正	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原
3	42-76 (35)	スーツ2 ・地直し(縮絨)について ・裁断 ・接着芯の裁断と貼り方 ・テーラードジャケットの縫製法(どんでん始末)	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原
4	77-90 (14)	スーツの部分縫い ・無飾りのアウトポケット ・両玉縁付きフラップポケット ・ファスナーあき裏地ミシン始末	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	学習方法	担当教員
5	91-110 (20)	コート1 ・コートの仮縫い方法と試着補正法 ・縮絨(地づめ) ・裁断 ・仮縫いと試着補正とパターン修正	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原
6	111-130 (20)	コート2 ・本縫いのための縫い代整理 ・パターン修正と裁断法 ・裁断 ・裏布のパターンメーキングと裁断 ・芯の裁断と接着 ・コートの縫製法 ・本縫い	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原
7	131-140 (10)	コートの部分縫い ・コートのポケットについて ・斜めの箱ポケット ・比翼仕立て ・玉縁ボタン穴	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原
8	141-170 (30)	商品企画 ・デザインについて ・アパレル業界のプロセス ・縫製仕様書・加工仕様書・縫製工程表 ・サンプル作成 ・検品 ・販売	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作・復習	演習 実技	菅原
9	171-240 (70)	テキスタイル作品(ショー作品) ・テキスタイル素材の説明と扱い方 ・フォーマル素材の説明 ・透ける素材の扱い方 ・レースについて ・特殊素材について ・シルキータッチ素材の部分縫い ・端始末、縫代始末	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	菅原

授業科目名	服装造形 平面構成Ⅱ【服装造形 平面構成】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	90	単位数	3
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	衣服と素材のデザインを応用し、スーツ、コート、ショー作品、応用作品の製作を通じ平面構成の技術を学ぶ。 各デザインに合わせた作図技術を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と素材のデザインについて基礎知識を応用し、スーツ、コート、ショー作品、応用作品の製作を通じ平面構成の技術を実践することができる。 ・課題に合わせた作図技術を行うことができる。 ・パターンメーカーとしての応用力を有するレベルに達することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	試験	70	試験、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④『ジャケット・ベスト』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座⑤『コート・ケープ』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 服飾造形講座⑥『服飾造形応用編Ⅰ(高級素材)』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局) ・一般財団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング検定試験3級ガイドブック』『パターンメイキング検定試験2級ガイドブック』 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-6 (6)	体型研究 ・原型のかき方 ・成人女子の体型と原型パターンの形状 ・原型の作り方、パターン操作を学ぶ	『服飾造形の基礎』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリントの復習 レポートの作成	講義 実習	菅原
2	7-30 (24)	スーツ ・ジャケットのデザインと作図 ・テーラードジャケット ・ピークトラペルのジャケット ・ダブルブレスト ・マニプレーション ・ショールカラー ・カーブドラペル	『ジャケット・ベスト』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリントの復習 レポートの作成	講義 実習	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
3	31-48 (18)	コート <ul style="list-style-type: none"> ・ストレートシルエットのコート ・ラグランスリーブのコート ・ルダンゴト ・フレアコート ・ドロップショルダー ・ヨークスリーブ ・エポレートスリーブ ・ドルマンスリーブ ・スクエアスリーブ ・キモノスリーブ ・まちについて ・ハイネック ・フード 	『コート・ケープ』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:プリントの復習 レポートの作成	講義 実習	菅原
4	49-66 (18)	商品企画 <ul style="list-style-type: none"> ・デザインについて ・アパレル業界のプロセス ・サンプル縫製 ・検品 ・販売 	『工業用パターンメイキング』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作	講義 実習	菅原
5	67-84 (18)	フォーマルウェア(ショー作品)・応用作品 <ul style="list-style-type: none"> ・シルキータッチの素材 ・透ける素材の扱い方 	『服飾造形応用編Ⅰ』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作	講義 実習	菅原
6	85-90 (6)	子供服 <ul style="list-style-type: none"> ・子供服制作に必要な計測 ・計測法とJIS規格 ・子供服原型について 	プリント配布 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の制作	講義 実習	菅原

授業科目名	服装造形 立体構成Ⅱ【服飾造形 立体構成】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	工業用ボディを使用し、立体裁断の基礎から応用まで学修する。 スカート応用、胸ぐせダーツ移動によるデザイン展開(ギャザー・タック)、ブラウス、衿のドレーピング技術を実習を通して学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 一般知識、ボディの基準線準備、シーチングの裁断方法の技術を実践することができる。 スカート応用、胸ぐせダーツ移動によるデザイン展開(ギャザー・タック)、ブラウス、衿のドレーピング技術を実習を通して実践することができる。 パターンナーとして、基礎から応用までの技術を有するレベルに達することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> 一般財団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング検定試験3級ガイドブック』 ・プリント資料配布 一般財団法人日本ファッション教育振興協会『パターンメイキング検定試験2級ガイドブック』 参考文献: ・文化ファッション大系アパレル生産講座④『立体裁断 応用編』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局)							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-6 (6)	立体裁断・ドレーピング ・胸ぐせダーツの応用展開 ・ドレーピング ・ドラフティング ・ピン仕上げ	『立体裁断 応用編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
2	7-12 (6)	前立てのある前中心ギャザー ・ドレーピング ・ドラフティング ・ピン仕上げ	『立体裁断 応用編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
3	13-18 (6)	ウエストからのドレープ ・ドレーピング ・ドラフティング ・ピン仕上げ	『立体裁断 応用編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
4	19-24 (6)	ギャザー入りのフレンチスリーブのブラウス ・ドレーピング ・ドラフティング ・ピン仕上げ	『立体裁断 応用編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
5	25-30 (6)	ブラウス ・ドレーピング ・ドラフティング ・ピン仕上げ	『立体裁断 応用編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	31-48 (18)	ブラウスの衿 ・シャツカラー ・スタンドカラー ・フラットカラー ・ウイングカラー ・ピン仕上げ	『立体裁断 応用編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
7	49-56 (8)	ヨーク切替のゴアードスカート ・ドレーピング ・ドラフティング ・ピン仕上げ	『立体裁断』 応用編 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
8	57-60 (4)	工業ボディについて ・ボディの種類・サイズ ・ボディ各部の名称 ・パターンメイキングの基礎 ・基本テクニック	『立体裁断』 応用編 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原

授業科目名	アパレル生産管理Ⅱ【生産企画・生産管理・アパレル品質論・素材論】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	<p>生産企画:縫製工場での生産ラインの組立てを理解し、生産計画の方法を習得する。</p> <p>生産管理:生産ラインで使用する縫製仕様書、加工指示書、裁断指示書等の書類について学修し、製造・生産の管理方法を習得する。</p> <p>・アパレル品質論・素材論:デザイン、素材に適した品質や取扱い方法を学修する。</p>							
到達目標	<p>・縫製工場での生産ラインの組立てと、生産計画の方法を行うことができる。</p> <p>・生産ラインで使用する縫製仕様書、加工指示書、裁断指示書等の書類作成や、製造・生産の管理を実施することができる。</p> <p>・布地の持つ性質を解釈し、新素材の情報や産地の特徴、企画・販売などに応用することができる。</p> <p>・デザイン、素材に適した品質や取扱いを実践することができる。</p>							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	レポート	70	レポート、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	<p>・文化ファッション大系 アパレル生産講座①『アパレル生産企画』文化服装学院編(文化出版局)</p> <p>・文化ファッション大系 アパレル生産講座②『アパレル製造企画』文化服装学院編(文化出版局)</p> <p>・文化ファッション大系 改訂版・服飾関連専門講座③『アパレル素材論』文化服装学院編(文化出版局)</p> <p>・プリント資料配布</p>							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-6 (6)	生産企画① 生産実務 ・生産担当実務の役割 ・生産業務の進め方	『アパレル生産企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
2	7-15 (9)	生産企画② ・生産計画 ・材料確認 ・設計作業の計画	『アパレル生産企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
3	16-23 (8)	生産管理① 生産実行 ・生産工場設定 ・納期管理	『アパレル生産企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
4	24-39 (16)	生産管理② 生産実務 ・実務処理 ・品質確認 ・原価計算 ・原価管理	『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
5	40-45 (6)	生産企管理③ 検査と品質 ・技術者と品質 ・加工品質設定	『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	46-50 (5)	アパレル品質論・素材論① 概論 ・繊維の分類 ・繊維の形状名称(用語について) ・繊維の鑑別 ・天然繊維(綿・麻・毛・絹)	『アパレル素材論』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
7	51-55 (5)	アパレル品質論・素材論② 各繊維の種類 ・化学繊維(再生繊維・半合成繊維・合成) ・糸(紡績糸・フィラメント糸) ・糸の撚り構成	『アパレル素材論』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
8	56-60 (5)	アパレル品質論・素材論③ 糸の太さの表示 ・ファンシーンヤーン ・加工糸の種類 ・布地(織物・構造・組織) ・絹物・構造・特徴	『アパレル素材論』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原

授業科目名	パターンメイキングⅡ【パターンメイキング】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	120	単位数	4
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	平面構成・立体構成によるパターンメイキングの理論を理解し、応用ジャケット、コート、ショー作品のパターン能力を養う。課題作品などの細目から素材の特性を考え、生産効率を考慮したパターンメイキングを学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・平面構成・立体構成によるパターンメイキングの理論を解釈し、ジャケット、コート、ショー作品のパターンを応用することができる。 ・ファッション造形とパターンメイキングに関する基礎知識と技術を、パタンナーとしての基礎的な実技能力を有するレベルに達することができる。 ・企業のパタンナーとしての応用力を有するレベルに達することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	制作物	50	制作物、レポート、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	レポート	20						
	出席状況	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑦『アパレル生産管理』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 アパレル生産講座⑫『アパレル製造企画』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 ・東レACS株式会社クレアコンポⅡ(パターンマジック・マーカーマジック) 							

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-40 (40)	パターンメイキング論 ・パターンメイキング演習 ・アパレル産業の生産プロセス ・アパレルメーカーと縫製工場 ・アパレルメーカーの実務	『工業パターンメイキング』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
2	41-60 (20)	縫製工場の実務 ・工程分析表 ・工程分析の記入方法 ・工程分析表作成	『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
3	61-80 (20)	縫製仕様書 ・縫製仕様書の記入方法 ・資材、仕様の知識	『アパレル生産管理』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
4	81-100 (20)	加工裁断芯貼り指示書 ・加工芯貼り指示書記入方法 ・芯貼りや裁断の条件における知識	『アパレル生産管理』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
5	101-120 (20)	品質のつくり込み ・品質向上へ向けた取り組み ・作業標準表の記入方法 ・原価計算 ・日程管理	『アパレル生産講座⑪』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原

授業科目名	<p align="center">アパレルパターンメイキングⅡ 【工業用パターンメイキング・グレーディング・CADパターンメイキング】</p>							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	<p>工業パターンメイキング(菅原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面構成・立体構成(工業用ボディ使用)によるパターンメイキング理論を体系的に学ぶ。 ・量産を意識したアイテム・素材論の工業用パターンメイキングおよび縫製仕様、縫製法を学ぶ。 <p>グレーディング(菅原):基本アイテムのグレーディング操作演習によりグレーディング理論の理解とパターン修正技術を学ぶ。</p> <p>CADパターンメイキング(菅原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCにてアパレルCADソフトを使用し、デジタルでのパターンメイキング基礎操作を学修する。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用パターンメイキングに関する専門知識、技術、グレーディング技術を実践することができる。また、企業のパタンナーとしての応用力を有するレベルに達することができる。 ・CADパターンメイキングは、アパレルCADソフトを使用し、デジタルでのパターンメイキングの操作を行うことができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	レポート	20	レポート、制作物、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	制作物	50						
	授業態度・姿勢	30						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・文化ファッション大系『アパレル生産講座⑩』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系『アパレル生産企画』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系アパレル生産講座⑤『工業パターンメイキング』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布 ・東レACS株式会社クリアコンポⅡ(パターンマジック・マーカーマジック) 							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用パターンメイキング① パターンメイキング ・原型 	『工業用パターンメイキング』 『アパレル生産企画』 『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
2	4-8 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用パターンメイキング② スーツパターンメイキング ・フルパターン ・部分縫いパターン ・縫製工程 縫製仕様 	『工業用パターンメイキング』 『アパレル生産企画』 『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
3	9-13 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用パターンメイキング③ 商品企画パターンメイキング ・フルパターン ・部分縫いパターン ・縫製工程 縫製仕様 	『工業用パターンメイキング』 『アパレル生産企画』 『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
4	14-18 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用パターンメイキング④ コートパターンメイキング ・フルパターン ・部分縫いパターン ・縫製工程 縫製仕様 	『工業用パターンメイキング』 『アパレル生産企画』 『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原
5	19-30 (12)	<ul style="list-style-type: none"> ・工業用パターンメイキング⑤ 応用作品パターンメイキング ・フルパターン ・部分縫いパターン ・縫製工程 縫製仕様 	『工業用パターンメイキング』 『アパレル生産企画』 『アパレル製造企画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義 実習	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	31-48 (18)	グレーディング パターンメイキング展開	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:操作の自主練習	講義 演習	菅原
7	49-52 (4)	CADパターンメイキング① ・CADの基本操作 ・原型トレースからパーツ化まで	事前:CADに興味を持つ 事後:課題作品の製作・復習	演習	菅原
8	53-56 (4)	CADパターンメイキング② ・CADの機能習得 ・マーキング	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:操作の自主練習	演習	菅原
9	57-60 (4)	CADグレーディング③ ・グレーディング基礎(スカート) ・3DCADの基礎知識	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:操作の自主練習	演習	菅原

授業科目名	ファッションデザインⅡ【ファッションデザイン画・テキスタイルデザイン】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	菅原 範子・加藤 祐子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのデザイン・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。 テキスタイルスクール(織り)の指導員を経て、作家活動や工房の運営経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	ファッションデザイン画(菅原) ・ファッションデザイン画に求められる実力の修得として、技術、知識、感性の3つの要素をカリキュラムにの課題として構成し、学生が独自の発想を具体的に表現できる実力を身につける。 ・現在のアパレル業界で流通している基本的なファッションアイテムを中心に衣服を明確に描く技術を習得する。 ・画材の使用や方法を習得しファッションデザイン画の表現力を養う。 テキスタイルデザイン(加藤):テキスタイルの基礎知識を元に織り組織を理解し、素材から服地のイメージを膨らませ、デザイン発想能力を習得する。							
到達目標	ファッションデザイン画 ・ファッションデザイン画を描く、技術、知識、感性を強化し、創作表現をすることができる。 テキスタイルデザイン ・素材、テクニック、造形、色の組み合わせのバランス感覚をし、創作することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	・文化ファッション大系 改訂版・服飾関連専門講座⑤『ファッションデザイン画』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布							

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-6 (6)	ファッションデザイン画① コンテスト作品対応 ・コンテストの趣旨を理解 ・コンセプトを考えテーマを決める ・ファッションデザイン画の作成	『ファッションデザイン画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
2	7-12 (6)	ファッションデザイン画② アイテム図の描き方 ・ファッションデザイン画のペン入れ ・ファッションデザイン画着色	『ファッションデザイン画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
3	13-18 (6)	ファッションデザイン画③ コンクール作品 ・独自のファッションデザイン・テーマ ・デザインコンセプトの考えとしての素材 ・テキスタイル製作など独自のアイデア	『ファッションデザイン画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
4	18-23 (6)	ファッションデザイン画④ 各自の実物作品のデザイン ・スーツ ・コート ・商品企画 ・校外ショー作品	『ファッションデザイン画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
5	24-30 (6)	ファッションデザイン画⑤ 応用作品 ・ポートフォリオ ・コンセプトの探求とテーマに基づいたデザイン ・デザイン画表現方法 ・イメージとビジュアル表現	『ファッションデザイン画』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	31-36 (6)	テキスタイルデザイン① 布製品の種類 ・フェルト・不織布 ・編み物(メリヤス・経メリヤス) ・織物(平織・斜文織・朱詩織)	事前:ファッションCGに興味を持つ 事後:課題作品の製作・復習	講義 実習	加藤
7	37-42 (6)	テキスタイルデザイン② 織物の種類による分類 ・織組織による分類 ・織物巾による分類 ・撚糸による分類 ・染色その他加工による分類	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義 実習	加藤
8	43-48 (6)	テキスタイルデザイン③ 織物のデザイン要素 ・三原組織 ・繊維の分類 ・糸について ・糸の撚り(撚りの方向・種類・飾り糸)	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義 実習	加藤
9	49-54 (6)	テキスタイルデザイン④ 糸の太さ(番手・デニール) ・手織りの工程 ・デザイン・糸巻き・整経・箆通し ・綜統通し・男巻に縛る・綾棒を入れる ・経巻き・千巻に縛る・織る・仕上げ	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義 実習	加藤
10	55-60 (6)	テキスタイルデザイン⑤ 応用織り ・ハニーコーン ・変わり観音紗 ・レース編み・キャンバス織 ・スウェーディッシュレースピックアップ織	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義 実習	加藤

授業科目名	ファッションデザイン学Ⅱ 【ファッション色彩学・モード史・ファッション情報】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	阿部 弘・谷内 眞佐子・菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	アパレルショップを経営後、カラスクールを創設し、色彩教育経験を生かした実践的な授業を行う。 歴史的背景を踏まえたファッション作品の研究と経験を生かした実践的な授業を行う。 ユニフォーム製造販売企業でのデザイン・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	ファッション色彩学(阿部): パーソナルカラーの基本知識を得て、色のイメージを豊かにする方法を学ぶ。 モード史(谷内): 1920～1980年代までの服飾史を知り、現代のファッションとの関わりを考察する。 ファッション情報(菅原): アパレル産業の現状・コレクション情報、最新のトレンド情報の知識を学ぶ。							
到達目標	ファッション色彩学: パーソナルカラーの基本知識を得て、色のイメージを豊かに表現することができる。 モード史: 1920～1980年代までの服飾史を知り、デザインを発想し表現することができる。 ファッション情報: アパレル産業の現状、コレクション情報の分析、トレンド情報を解釈することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	レポート・作品	60	レポート、課題作品、試験、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	試験	20						
	授業態度・姿勢	20						
教材	・一般社団法人日本カラーコーディネーター協会『色彩活用パーソナルカラー検定公式テキスト3級』改訂版日本興業新聞社 ・文化ファッション大系 服飾関連専門講座①改訂版『西洋服装史』文化服装学院編(文化出版局) ・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-3 (3)	ファッション色彩学① ・色彩活用としてのパーソナルカラー ・パーソナルカラーの基本	『色彩活用パーソナルカラー検定公式テキスト3級』 事前: テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の復習・復習	講義 演習	阿部
2	4-6 (3)	ファッション色彩学② ・色のイメージを豊かにする ・似合う色の基準を知る ・ドレーピング方法	『色彩活用パーソナルカラー検定公式テキスト3級』 事前: テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の復習・復習	講義 演習	阿部
3	7-9 (3)	ファッション色彩学③ ・似合う色を取り入れる ・色彩活用テクニック	『色彩活用パーソナルカラー検定公式テキスト3級』 事前: テキストの該当箇所を読む 事後: 課題作品の復習・復習	講義 演習	阿部
4	16-18 (3)	モード史① ・オードリー・ヘップバーンについて ・現代の服飾 ・1920年代の服飾(アールデコ) ・簡素と機能性	『西洋服装史』 事前: テキストの該当箇所を読む 事後: レポートの作成・復習	講義	谷内(眞)

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
5	19-21 (3)	モード史② ・ジャンコークとバレエ衣裳 ・ギャルソンヌスタイル ・1930年代の服飾(世界的大恐慌) ・1940年から50年代の服飾 ・戦後モードの指針ディオール ・ニュールック ・1960年代の服飾 ・プレタポルテの時代へ	『西洋服装史』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義	谷内(真)
6	22-24 (3)	モード史③ ・1970年代の服飾 ・若者ファッションの時代へ ・1980年代の服飾 ・トレンドの多様化	『西洋服装史』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義	谷内(真)
7	25-27 (3)	モード史④ ・東京コレクション(黒の衝撃) ・モードのジャポニズム(ビデオ) ・ココ・シャネル ・ザ・ストリートオブコレクション①②	『西洋服装史』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義	谷内(真)
8	28-30 (9)	ファッション情報 ・パリコレクションについて ・ファッションアドバイザーの世界 ・ポートフォリオの作成	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成・復習	講義	菅原

授業科目名	服飾工芸Ⅱ【服飾手芸・ニット・テキスタイル・帽子・染色・アクセサリー】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	90	単位数	3
担当教員	大川寿美子・加藤祐子・酒井アキノ・菅原範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	編み物教室の運営および編み物本の執筆経験を生かし、実践的な授業を行う。 テキスタイルスクール(織り)の指導員を経て、作家活動や工場の運営経験を生かし、実践的な授業を行う。 海外の織物博物館にて学芸員として培った染色研究経験、作家活動を生かした実践的な授業を行う。 ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	帽子・アクセサリー(菅原) ・服飾手芸の基礎知識を学び、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につける。 ・アクセサリーの基礎知識を学び、クリエイティブかつオリジナルな創作力を養う。 テキスタイル(加藤):織機の構造を理解し、実物製作を通して各種織り技法の構造を知る。 ニット(大川):ニットの基礎知識を学び知識と技術を学ぶ。 染色(酒井):染色に関する基礎的な知識と技法を習得する。テキスタイルについての理解を深める。							
到達目標	・服飾手芸の全般における基礎知識を高め、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展することができる。 ・素材、テクニック、造形、色の組み合わせのバランス感覚を磨き表現することができる。 ・服飾工芸の技術を、作品課題の装飾などに使用することでデザインを工夫することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	・基本の編み方がわかる本『はじめましての棒編み教室』(文化出版局) ・プリント資料配布 ・いちばんよくわかる 新・かぎ針あみの基礎(日本ヴォーグ社) ・文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧『手芸』文化服装学院編(文化出版局) ・文化ファッション大系 アパレル生産講座⑭『ニットの基礎技術』文化服装学院編(文化出版局)							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-3 (3)	服飾手芸① ・手芸の一般知識 ・手芸の変遷や技術の種類について	『手芸』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	菅原
2	4-7 (4)	服飾手芸② ニット ・モチーフ ・編み方 ・仕上げ	『いちばんよくわかる 新・かぎ針あみの基礎』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	菅原
3	8-11 (4)	服飾手芸③ ニット ・かぎ針編みの洗濯ばさみ ・編み方 ・仕上げ	『いちばんよくわかる 新・かぎ針あみの基礎』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	菅原
4	12-15 (4)	服飾手芸④ タディングレース ・シャツの扱い方 ・シャツの表目と裏目 ・レース模様 ・仕上げ	『手芸』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	菅原
5	16-20 (5)	ニット① ・かぎ針編み ・作り目 ・編み方数種類 ・増し目と減らし目 ・編込み模様 ・はぎ方、とじ方、仕上げ	『いちばんよくわかる 新・かぎ針あみの基礎』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	大川

項目	時限数	授 業 内 容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
6	21-25 (5)	ニット② ニードルタディングレース ・表目と裏目のダブルステッチ ・仕上げ	『いちばんよくわかる 新・かぎ針あみの基礎』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	大川
7	26-30 (5)	ニット③ ・棒針編み ・作り目 ・編み方数種類 ・アフガン編み ・引き返し編み ・増し目と減らし目 ・とじ方、仕上げ	『はじめましての棒針教室』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実技	大川
8	31-36 (6)	テキスタイル① ・布製品の種類 ・フェルト・不織布 ・編み物(メリヤス・経メリヤス) ・織物(平織・斜文織・朱詩織)	『ニットの基礎技術』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	実技	加藤
9	37-42 (6)	テキスタイル② ・織物の種類による分類・織組織による分類 ・織物巾による分類 ・撚糸による分類 ・染色その他加工による分類	『ニットの基礎技術』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	実技	加藤
10	43-48 (6)	テキスタイル③ ・織物のデザイン要素・三原組織 ・繊維の分類 ・糸について ・糸の撚り(撚りの方向・種類・飾り糸)	『ニットの基礎技術』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	実技	加藤
11	49-54 (6)	テキスタイル④ ・糸の太さ(番手・デニール) ・手織りの工程(デザイン・糸巻き・整経・箆通し・ 綜統通し・経巻き・千巻に縛る・織る・ 仕上げ)	『ニットの基礎技術』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	実技	加藤
12	55-74 (20)	テキスタイル⑤ ・応用織り(ハニーコーン・変わり観音紗・レース編み・ キャンバス織・スウェーディッシュレース ピックアップ織)	『ニットの基礎技術』 事前:テキスト・プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	実技	菅原
13	75-79 (5)	帽子 ・帽子の一般知識と種類 ・帽子の素材・木型・用具 ・実物製作 ・採寸し実物パターン・裁断・印付け・本縫い	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義 実技	菅原
14	80-85 (6)	染色 ・顔料樹脂染料による型紙捺染 ・型紙捺染の仕組み ・捺染の種類と版式 型紙製作と印捺、仕上げ方法 ・顔料樹脂染料の特徴と染料との比較 ・顔料による染色	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義 実技	酒井
15	86-90 (5)	アクセサリ ・アクセサリの一般知識 ・アクセサリの変遷や技術の種類 ・実物製作 ・各自の作品に合わせて作品製作	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義 実技	菅原

授業科目名	ファッションビジネス論Ⅱ【ファッションビジネス論・ショッピングリサーチ】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	菅原 範子・谷内 彩子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。 アパレル企業でのパタンナー・生産管理経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	ショッピングリサーチ・販売実務(菅原) ・ショッピングや街頭などの調査を通してリサーチ力を身につける。調べる、見る、聞きリサーチの基本を習得する。 ・ファッション産業の構造を理解し業界別にリサーチを行い、それぞれの特徴を学修する。 ファッションビジネス論(谷内彩):アパレル産業のさまざまな職業・職種を理解し、衣服が店頭で並ぶまでの流通を学ぶ。 アパレル産業において、産業構造(繊維・アパレル・小売)と現状を理解し、マーケティング、ブランドターゲット、ブランドコンセプトの組立てについて学ぶ。							
到達目標	・目的に合わせたリサーチを実践し、得られた情報分析をキャリアに結びつけ実践することができる。 ・アパレル産業において、産業構造(繊維・アパレル・小売)と現状を解釈し、特徴と問題点、社会と消費者の変化、国際環境の変化などファッション業界の変遷と実態を把握し、比較することができる。 ・マーケティング、ブランドターゲット、ブランドコンセプトの組立てについて実践することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備 考					
	レポート	70	レポート、授業姿勢・態度を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	・プリント資料配布 参考文献 ・文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑫『ファッションビジネス』文化服装学院編(文化出版局)							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-5 (5)	ファッションビジネス論① ・アパレル産業での職種、職業について ・アパレル産業の構造について	事前:アパレルの職種について調べる 事後:授業内容の復習	講義	谷内(彩)
2	6-10 (5)	ファッションビジネス論② ・日本ブランドの歴史 ・ブランドターゲット、コンセプト、ブランド戦略について	事前:プリントの該当箇所を読む 事後:授業内容の復習 レポートの作成	講義	谷内(彩)
3	11-15 (5)	ファッションビジネス論③ ・レポート発表 ・アパレル産業の現況	事前:プリントの該当箇所を読む 事後:授業内容の復習 レポートの作成	講義	谷内(彩)
4	16-25 (10)	ショッピングリサーチ① ・市場調査	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成	演習 実習	菅原
5	25-30 (5)	ショッピングリサーチ② 販売実務 ・商品企画販売	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:レポートの作成	演習 実習	菅原

授業科目名	ファッションコーディネートⅡ【コーディネート論・コーディネート演習】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	菅原 範子・吉野 翠	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造販売企業でのパタンナー・生産経験を生かし、実践的な授業を行う。 縫製工場での縫製、ユニフォーム製造企業での企画・デザイナー経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	<p>コーディネート論：(菅原)</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代への適用力を持ち合わせ、客観的に捉えたファッションコーディネートの提案能力を養う。 <p>コーディネート演習：(菅原)(吉野)</p> <ul style="list-style-type: none"> アクセサリーと色彩、素材を考えながら、トータルコーディネートの組合せを学ぶ。 							
到達目標	ファッションのトータルの着こなしや、着せつけなど実践的に取り組み応用することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
	作品	70	課題作品、授業態度・姿勢を総合して評価する					
	授業態度・姿勢	30						
教材	・文化ファッション大系ファッション流通講座⑦『コーディネートテクニック演出編』文化服装学院編(文化出版局)							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-6 (6)	コーディネート論① ファッションコーディネートの基本的な知識と技術	事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義	菅原
2	7-15 (9)	コーディネート論② ファッションイメージに視点を置いたコーディネート ・クラシック ・エレガント ・ロマンティック ・スポーティー ・エスニック ・マニッシュ ・モダン ・アバンギャルド	『コーディネートテクニック演出編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	講義	菅原
3	16-22 (7)	コーディネート演習① アクセサリーに視点を置いたコーディネート	『コーディネートテクニック演出編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習	菅原 吉野
4	23-30 (8)	コーディネート演習② 色彩と素材に視点を置いたコーディネート	『コーディネートテクニック演出編』 事前:テキストの該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習	菅原 吉野

授業科目名	キャリア教育Ⅱ【就職ガイダンス・企業研修】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	60	単位数	2
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	企業での知識や経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	就職ガイダンス ・就職にむけて、自己分析・履歴書・エントリーシートの書き方、面接練習等、実践的に学ぶ。 ・学校内外の会社説明会に積極的に参加する。 企業研修 ・企業訪問や協力企業にて企業研修(インターンシップ)を行い、将来の職業に対する向上心もつ。 ・企業で即戦力となる、専門知識や技術及び態度を学ぶ。							
到達目標	就職ガイダンス ・自己について解釈し、他者に自身のことを説明することができる。履歴書、エントリーシートなどの書類作成、就職面接に対応する適切な態度を実践することができる。 ・企業研修:企業訪問や企業研修を行うことで、社会人としての考え方、行動を実践することができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-10 (10)	就職ガイダンス① ・就職活動の進め方について ・自己分析表の作成 (履歴書や面接時の自己PRとなる自己の性格や経験を文章化する)	事前:職業について情報収集する 事後:作成した自己分析表を読み、自己の強みを振り返る	講義	菅原
2	11-20 (10)	就職ガイダンス② ・履歴書の作成 自己分析表を元に作成する ・模擬面接① (各自が希望する職業、服飾関連企業にて面接する事を想定した模擬面接を行う)	事前:資料該当箇所を読む 事後:模擬面接①の反省・振り返り	講義	菅原
3	21-30 (10)	就職ガイダンス③ ・模擬面接② (模擬面接1での反省を踏まえ再度模擬面接を行い改善を図る)	事前:履歴書、自己分析表を読む 事後:模擬面接②の反省・振り返り	講義	菅原
4	31-55 (25)	・企業研修① 企業訪問、企業研修への心構え (協力企業にて企業訪問、企業研修を行う)	事前:訪問企業について調べる 事後:研修内容・態度の振り返り	実習	菅原
5	55-60 (5)	・企業研修② 実習記録の記入、反省と考察 (企業研修後、職業観を考え確立する)	事前:研修内容をまとめる 事後:自己の職業観についての振り返り	実習	菅原

授業科目名	一般教養Ⅱ【ビジネスマナー・美術鑑賞】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	菅原範子・三品あおい	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	煎茶道竹峯流教授、マナープルトコール検定準1級取得経験を生かして、実践的な授業を行う。							
授業概要	ビジネスマナー(三品) ・挨拶の仕方や姿勢、名刺交換など社会人としてのマナーを学ぶ。 ・テクニカルスキル、ヒューマンスキル、コンセプチュアルスキルを学ぶ。 美術鑑賞(菅原) ・美術館・博物館・ギャラリーなどで芸術作品を鑑賞し、美の本質を知り教養を高め、創造力や感性を養う。							
到達目標	・社会人としての心構え、ビジネスマナーの基本を社会人として必要なマナーを行うことができる。 ・美術館、博物館、ギャラリーなどの施設にて、芸術作品の見方と創造力を養い感性をさらに磨くことができる。							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-3 (3)	就職にも役立つビジネスマナー ・コミュニケーション ・笑顔の基本 ・話方の基本 ・挨拶の基本 ・名刺のマナー ・電話マナー ・お茶の淹れ方	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	三品
2	4-15 (12)	ビジネスマナー ・名刺・電話のマナー ・アポイントの取り方 ・エントリーシートの書き方 ・履歴書の書き方	事前:プリント資料の該当箇所を読む 事後:課題作品の製作・復習	演習 実習	菅原
3	16-30 (15)	美術鑑賞 ・美術館や展示会にて美術鑑賞	事前:鑑賞する美術、芸術の歴史や作品の背景について調べる 事後:鑑賞した作品について考察、レポートの作成	講義	菅原
4					
5					

授業科目名	特別授業【校外研修・特別講義】							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	無	時限数	30	単位数	1
担当教員	菅原 範子	区分	常勤	非常勤	授業期間	前期	後期	通年
実務経験を生かした教育内容	ユニフォーム製造工場での経験を生かし、実践的な授業を行う。							
授業概要	校外研修 ・工場、作品展示会、ファッションショーなどを見学・参加し、知識及び情報を収集し感性を磨く。							
	特別講義 ・企業の方やデザイナーなど、様々な専門家を招き、講義を受けることによりファッション業界の現状を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修を行うことによって、外部とコミュニケーションすることができる。 ・企業の方やデザイナーなど、ファッション業界の専門家から直接講義を受けることにより、専門知識や技術を学修する意義を解釈することができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	特になし							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-15 (15)	校外研修 ・工場、作品展示見学 ・ファッションショーなどの見学・参加	事前: 研修先について情報収集する 事後: 研修内容の振り返り	講義	菅原
2	16-30 (15)	特別講義 ・アパレルメーカーやデザイナーなどファッション業界の専門家による講義	事前: 特別講師について情報収集する 事後: 講義内容について振り返り・考察	講義	菅原
3					
4					
5					

授業科目名	学校行事							
科目担当責任者	菅原 範子	実務経験	有	<input type="radio"/> 無	時限数	30	単位数	1
担当教員	菅原 範子	区分	<input checked="" type="radio"/> 常勤	<input type="radio"/> 非常勤	授業期間	前期	後期	<input checked="" type="radio"/> 通年
実務経験を生かした教育内容								
授業概要	新入生歓迎会、募金活動、スクールピクニック、針供養などの行事を通し、コミュニケーション能力、社会貢献活動の意義、日本の伝統文化を学修する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全校学生が行事に参加することにより、他者とのコミュニケーションを強化することができる。 ・針供養にて日本の伝統的年間行事を継承し解釈をすることができる。 							
評価	評価対象	評価割合(%)	備考					
			受講認定					
教材	・プリント資料配布							

項目	時限数	授業内容	事前・事後学修	授業形態	担当教員
1	1-30 (30)	新入生歓迎会 スクールピクニック 針供養	事前: 行事について情報収集する 事後: 行事内容について振り返り・考察	演習	菅原
2					
3					
4					
5					